

常磐植物化学研究所
社会・環境活動レポート

2011

常磐植物化学研究所の環境方針

基本理念

植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発、加工、製品化、そして植物栽培まで、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化
環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。
2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進
エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。
3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進
廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。また、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。
4. 環境関連法規の遵守
環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。
5. 環境方針の周知と社内教育の推進
地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。
6. 地域の人々との共生
地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2011年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所
取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役 立崎 隆

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <http://www.tokiwaph.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 技術部長 : 木村 宜仁 TEL 043-498-0007
担当者 EA21事務局 : 川上 英治 (e-kawakami@tokiwaph.co.jp)
: 大上 崇 (t-daijo@tokiwaph.co.jp) TEL 043-498-0079

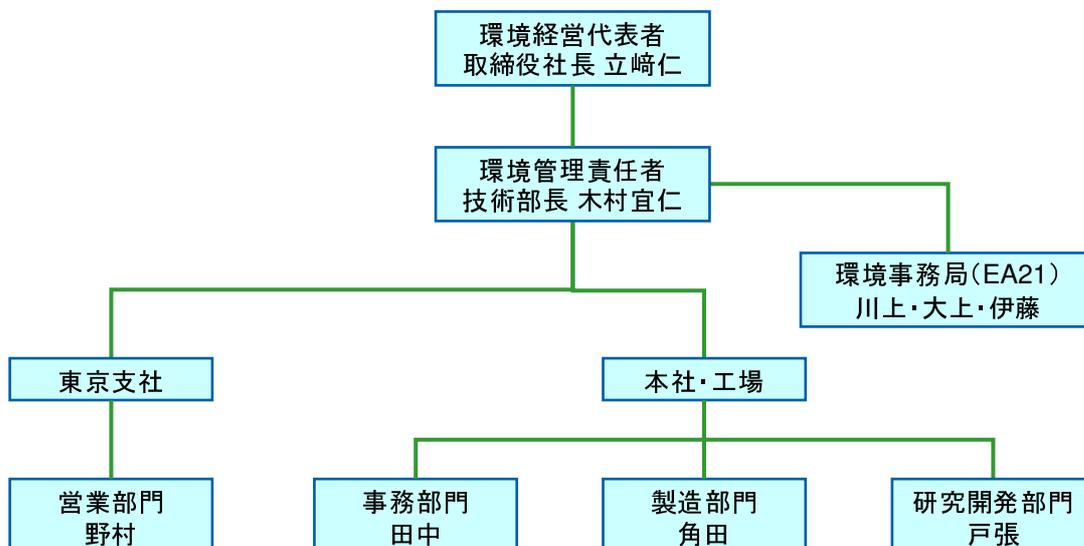
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

製品出荷額 25億円/年
主要製品生産量 900t/年
従業員 本社・工場 86名 東京支社 11名 (2011.4.1現在)
工場延べ床面積 本社・工場 7,956㎡ 東京支社 138㎡

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

2010年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ■節電運動休憩時間中の照明の消灯 ■エコプロ導入電気使用量の削減	目標:1,775千kg-CO ₂ 実績:1,545千kg-CO ₂ 対比:87.0%	日常管理により大きな成果が得られている。稼働状況を把握しつつさらに管理レベルを徹底していくこと。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ■エコドライブ運動の推進 ■蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標:2,385千kg-CO ₂ 実績:2,833千kg-CO ₂ 対比:118.8%	稼働状況、製造内容によって、大きく変動してしまうため、目標値の見直しが必要。
一般廃棄物の削減 ■消耗品の購入管理 ■分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標:51.5t 実績:32.7t 対比:63.9%	分別、リサイクル、使用量削減などしっかりと管理できている。
産業廃棄物の削減 ■有機溶媒の省力化 ■産業廃棄物管理	目標:63.8t 実績:60.9t 対比:87.7%	常に管理を怠らず、定期的な廃棄物処理を行うこと。
節水 ■各工場への節水教育 ■退出時の見回り実施、節水意識の向上	目標:110,824m ³ 実績:96,591m ³ 対比:87.1%	社内における周知徹底が行われている。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ■リサイクルの推進 ■動植物性残渣の低減	目標:80.0%以上 実績:99.4%	現状維持に努めること。
地域社会との共生 ■周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	引き続き活動を継続すること。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ■エアコン設定温度の管理 ■未使用機器の電源を切る	目標:5497kg-CO ₂ 実績:4928kg-CO ₂ 対比:89.6%	夏場の電力削減に努めること。
一般廃棄物の削減 ■裏紙使用によるコピー用紙の削減 ■書類の紙媒体削減	目標:340kg 実績:330kg 対比:97.1%	まだ改善の余地があり、次年度の計画に反映させること。
節水 ■節水の周知徹底、節水機器の設置 ■退出時の見回り実施	目標:95m ³ 実績:95m ³ 対比:100%	現状維持という結果を受けて、目標設定、実施計画の見直しが必要である。

総括(全体評価と見直し内容)

目標を達成できている項目とそうでない項目があり、生産状況や人員によって変動要因が大きい項目については、計画の段階からよく考え、目標を設定する必要がある。

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は本社・工場=0.555、東京支社=0.332とする。

環境目標及びその実績

本社・工場

集計期間2008年度、2009年度、2010年度実績

項目	年度	2008年度	2009年度	2010年度
		実績	実績	実績
二酸化炭素排出量(電力)の節減	千kg-CO ₂	1,681	1,702	1,545
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	千kg-CO ₂	2,557	3,095	2,833
一般廃棄物の削減	総量 (t)	34.2	35.9	32.7
産業廃棄物の削減	総量 (t)	47.4	108.6	60.9
総排水の節減	総量 (m ³)	105,625	98,909	96,591
食品廃棄物のリサイクル率の維持	(%)	97.9	98.4	99.4
参考/製品の拡売	生産量 (t)	751	733	900

東京支社

集計期間2009年度、2010年度実績

項目	年度	2009年度	2010年度
		実績	実績
二酸化炭素排出量(電力)の節減	kg-CO ₂	5667	4928
一般廃棄物の削減	総量 (kg)	347	330
総排水の節減	総量 (m ³)	98	95

中期目標

本社・工場

項目	2007年度(基準年)	2008年度	2009年度	2010年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,849 千kg-CO ₂	1,812(2%節減)	1,794(3%節減)	1,775(4%節減)
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,484 千kg-CO ₂	2,434(2%節減)	2,409(3%節減)	2,385(4%節減)
一般廃棄物の削減	53.1 t	52.6(1%削減)	52.0(2%削減)	51.5(3%削減)
産業廃棄物の削減	65.8 t	65.1(1%削減)	64.5(2%削減)	63.8(3%削減)
総排水の節減	119,166 m ³	116,783(2%節減)	113,208(5%節減)	110,824(7%節減)
食品廃棄物リサイクル率の維持	80%以上	維持	維持	維持

東京支社

項目	2009年度(基準年)	2010年度	2011年度	2012年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減	5667 kg-CO ₂	5497(3.0%節減)	5440(4.0%節減)	5383(5.0%節減)
一般廃棄物の削減	347 Kg	340(2.0%削減)	337(3.0%削減)	333(4.0%削減)
総排水の節減	98 m ³	95(3.0%節減)	94(4.0%節減)	93(5.0%節減)

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は本社・工場=0.555、東京支社=0.332とする。

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、マニフェスト管理)
フロン回収破壊法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(証明書の管理)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、リサイクル率 99.4%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ボンベ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は99.4%と維持できています。
なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

2011年度 環境活動計画

2011年度部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	<u>二酸化炭素排出量(電力)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■冷蔵庫及び冷凍庫の管理 ■冷房28℃以上、暖房22℃以下の設定 ■空圧設備の管理(エア漏れの定期点検)
	<u>二酸化炭素排出量(燃料)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■ボイラーの管理 ■蒸気漏れの定期点検 ■メイン配管の見直し
	<u>一般廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■廃棄物分別の管理 ■リサイクル業者の選定
	<u>産業廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■食品廃棄物の分別の徹底及び管理 ■鉄くず・廃プラの分別及びリサイクル率の向上
	<u>節水</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の削減(夜間及び休日)
事務部門	<u>二酸化炭素排出量(電力)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■エアコン設定温度管理の徹底 ■照明・未使用機器の節電及び就業時の消灯チェック
	<u>二酸化炭素排出量(燃料)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■無駄な使用防止措置として走行確認表記入徹底 ■エコドライブの推進 啓蒙活動
	<u>一般廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■分類収集・リサイクル推進
	<u>節水</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■使用量の徹底管理(テーター更新&集計) ■水栓の正常稼働の確認及び修繕
研究開発部門	<u>二酸化炭素排出量(電力)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■機器メンテナンスの手順化、スケジュール化
	<u>一般廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■コピー用紙、紙類の削減 ■サンプル瓶などの再利用を徹底する ■ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	<u>産業廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■有機溶媒の省力化、廃液処理手順の見直し ■ガラス器具の破損防止
	<u>節水</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■節水表記及び器具洗浄方法の見直し ■節水機器の導入検討
営業部門	<u>二酸化炭素排出量(電力)の節減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■エアコン設定温度管理、クールビズ対策 ■PC電源の節電 ■証明及び未使用機器の節電
	<u>一般廃棄物の削減</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	<u>節水</u>	<ul style="list-style-type: none"> ■節水の周知徹底、節水機器の設置 ■水使用量の管理、最終退室者の見回り点検

地域社会の笑顔のために

私たちだからこそできる貢献を通じて、社会から愛され必要とされる企業市民でありたいと思っています。

常磐植物化学研究所の理科実験教室

プログラム

【タイトル】 ～植物の成分と私たちの健康～
植物の成分をつかまえてみよう！食べてみよう！

【実施校】 佐倉市内の小学校 理科クラブ(4・5・6年生)

【実験内容】 ①「ブルーベリーの成分を抽出してみよう」
ークロマトグラフィーの原理を紹介
②「甘草の甘みを感じてみよう！」
ー砂糖の150倍で、後引く甘さを実感



授業内容

1. ブルーベリーについて

ブルーベリーからアントシアニンという成分が取れ、それがどのように私たちの生活に関わっているのか伝えました。

【実験の目的】

植物から成分を取り出す方法を知る

【実験の手順概要】

- ①果汁液を入れる ②コックをひねる
- ③少量に分ける ④エタノールを入れる

【実験の結果】

アントシアニンのみの青色溶液がとれる



2. 甘草について

甘草(カンゾウ)という植物は、医薬品・化粧品・食品にどのように使われているのか伝えました。

【実験の目的】

植物に含まれる成分のちからを知る

【実験の手順概要】

- ①粉末を水に溶かす
- ②甘さが弱い順に舐める

【実験の結果】

砂糖の150倍で、後から来る甘さを体感



緑化推進／ハーブ園の一般開放

平成8年4月に第1ハーブ園を開園してから15年、植物と手で触れ合うことのできるハーブ園を目指して続けて参りました。今年は薬用植物園も加わり、珍しい植物も仲間に入りました。実際の植物たちに会いに、ぜひ足を運んでみてください。

ハーブ園：千葉県佐倉市木野子158



当帰 (トウキ)



紅花 (ベニバナ)



茴香 (ウイキョウ)



地域周辺美化活動

「地域の人々との共生」をテーマに、毎月会社周辺の美化活動を行っています。地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。



東日本大震災の被災者への支援について

東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

常磐植物化学研究所は、被災地の復興に役立てていただくため、義援金を寄付するとともに、社員個人からの義援金も取りまとめた上で被災地へお送りいたしました。

今後も、企業活動を通じて復興のお役に立てるよう、全力で取り組んでまいります。



対象期間 : 2010年4月～2011年3月
発行日 : 2011年9月2日

常磐植物化学研究所 社会・環境レポート2011

株式会社常磐植物化学研究所

<http://www.tokiwapl.co.jp/>

【本社・工場】

〒285-0801

千葉県佐倉市木野子158

TEL: 043-498-0007 FAX: 043-498-0561

【東京支社】

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

TEL: 03-5200-1251 FAX: 03-5200-1256

